

2014年度 センター研究員・研究協力者

センター研究員

名前	所属部局	職名	研究班
内田 青蔵 (センター長)	工学研究科建築学専攻	教授	3
大里 浩秋 (副センター長/運営委員<研究会担当>)	外国語学研究科中国言語文化専攻	教授	3
小熊 誠 (運営委員<国際交流担当>)	歴史民俗資料学研究科	教授	4
熊谷 謙介 (事務局長/運営委員<事務総括担当・編集担当>)	外国語学部国際文化交流学科	准教授	2
鳥越 輝昭 (運営委員<国際交流担当>)	外国語学研究科欧米言語文化専攻	教授	2
大串 潤児	信州大学人文学部	准教授	8
川島 秀一	東北大学災害科学国際研究所	教授	5
木下 宏揚	工学研究科電気電子情報工学専攻	教授	7
金 容範	非文字資料研究センター	客員研究員	3
小松原 由理	外国語学部国際文化交流学科	准教授	2
佐野 賢治	歴史民俗資料学研究科	教授	7
須崎 文代	非文字資料研究センター	客員研究員	3
孫 安石	外国語学研究科中国言語文化専攻	教授	3
田上 繁	歴史民俗資料学研究科	教授	6
津田 良樹	工学部建築学科	助教	4
富澤 達三	葛飾区郷土と天文の博物館	博物館専門調査員 (非常勤)	8
中島 三千男	歴史民俗資料学研究科	教授	4
能登 正人	工学研究科電気電子情報工学専攻	准教授	7
ステファン・ブッヘンベルグ	外国語学部国際文化交流学科	准教授	2
ジョン・ボチャラリ	明治大学文学部 歴史民俗資料学研究科	客員教授 非常勤講師	1
前田 孝和	株式会社 神社新報社	取締役総務部長	4
宮田 純子	工学部電気電子情報工学科	特別助手	7
村井 寛志	外国語学研究科中国言語文化専攻	准教授	3
森 武麿	歴史民俗資料学研究科	教授	6, 8
森山 優	静岡県立大学大学院国際関係学研究所	准教授	8
安田 常雄	歴史民俗資料学研究科	特任教授	6, 8
安室 知	歴史民俗資料学研究科	教授	5
クリスチャン・ラットクリフ	外国語学部国際文化交流学科	准教授	1

研究協力者

新垣 夢乃	歴史民俗資料学研究科	博士後期課程	8
稲宮 康人	写真家		4
金子 展也	株式会社 日立ハイテクトレーディング		4
何 彬	首都大学東京教養学部	教授	1
菊池 敏夫	日本大学通信教育部	非常勤講師	3
吉川 良和	外国語学部中国語学科	非常勤講師	3
君 康道	東京大学大学院総合文化研究科	講師	1
栗原 純	東京女子大学現代教養学部	教授	3
小松 大介	豊島区立郷土資料館	資料整理員	7
小山 亮	明治大学大学院文学研究科	博士後期課程	8
辻子 実	日本キリスト教協議会靖国神社問題委員会	委員長	4
鈴木 一弘	高知大学自然科学学系理学部門	助教	7
徐 東千	東京大学生産技術研究所	準博士研究員	1
田島 奈都子	青梅市立美術館	主査 学芸員	3
常光 徹	国立歴史民俗博物館	教授	5
富井 正憲	漢陽大学校建築大学	教授	3
中井 真木	早稲田大学国際教養学部	助手	1
原田 広	非文字資料研究センター		8
松田 睦彦	国立歴史民俗博物館	准教授	5
松本 和樹	歴史民俗資料学研究科	博士後期課程	8



名前	所属部局	職名	研究班
山本 志乃	旅の文化研究所	主任研究員	5
李 利	非文字資料研究センター		1
若宮 幸一	旧古河鉱業若松ビル	館長	6
渡邊 奈津子	非文字資料研究センター		4

研究班：1 『マルチ言語版絵巻物による日本常民生活絵引』 編纂共同研究
 2 19世紀前期ヨーロッパ生活絵引研究
 3 中国・朝鮮の旧日本租界
 4 海外神社跡地のその後

5 汽水の生活環境史
 6 船上生活者の実態とその変容に関する研究
 7 インターネット・エコミュージアムのためのデータマイニングとユーザインタフェース等の基盤技術に関する研究
 8 戦時下日本の大衆メディア研究

2014年度 奨励研究者決定

研究課題	氏名(所属)
非文字資料から見る「かくれキリタン信仰」	小泉 優莉菜 (歴史民俗資料学研究科博士後期課程)
フエ地域のオンタオ(竈神)祭祀シン村オンタオ版画を中心に	鍋田 尚子 (歴史民俗資料学研究科博士後期課程)
韓国解放後における6つの国弊社の解体と跡地変遷の研究	諸葛 衍 (歴史民俗資料学研究科博士後期課程)
現代華北農村の土地制度の変革による家産分配の変化	王 新 艶 (歴史民俗資料学研究科博士後期課程)
階段から見た我が国戦前期の住宅の変遷に関する一考察	古俣 和将 (工学研究科建築学専攻博士前期課程)

国際常民文化研究機構 刊行物

神奈川県国際常民文化研究機構より、国際常民文化研究叢書が4巻刊行されました。



国際常民文化研究叢書 第5巻
環太平洋海域における伝統的造船技術の比較研究



国際常民文化研究叢書 第6巻
民具の名称に関する基礎的研究
[民具名一覧編]



国際常民文化研究叢書 第7巻
アジア祭祀芸能の比較研究



国際常民文化研究叢書 第8巻
アチックフィルム・写真にみるモノ・身体・表象 [資料編]

神奈川県日本常民文化研究所 調査報告書



第21集 (常民文化奨励研究 調査報告書)
『有明海及び地中海の里海としての利用慣行』



第22集 (常民文化奨励研究 調査報告書)
『アイヌ民族に伝わる漆器の調査研究—アイヌ民具としての漆器類の基礎的データの収集と分析—』

神奈川大学日本常民文化研究所 展示室のご紹介

2014年3月25日、横浜キャンパス新棟（3号館）の完成に併せて、同3号館内に「神奈川大学展示ホール」が新設され、その一角に〔神奈川大学日本常民文化研究所展示室〕〔企画展示室〕が新設されました。

〔神奈川大学日本常民文化研究所展示室〕は1921年渋沢敬三により創設されて以来の研究所の変遷を、実物資料と写真パネルを中心に展示しています。

〔企画展示室〕では、第1回企画展として「近藤友一郎和船模型の世界」を開催しています。この展示は所蔵する「近藤和船研究所コレクション」の船大工道具や模型などの資料を展示し、船大工近藤友一郎氏の卓越した技術と研究によって制作された和船模型をとおして、船を介した海との関わりの重要性を考えるものです。また地下1階ロビーには近藤氏が製作した和船の実物大断面模型も展示されています。



開館：月～土曜日 10:00～17:00 参観自由 ※入館は16:30まで
休館：日曜日・祝日、大学所定の休日、授業日以外の土曜日

第18回常民文化研究講座「船模型・船図・船絵馬」—和船資料の保存と活用—

趣 旨

日本常民文化研究所は、創設以来海村資料による海域海民史研究に先駆的役割を果たしてきた。中でも当研究所財団の初代理事長を務めた桜田勝徳は、日本各地に残る木造漁船の船名を収集整理した「船名集」や、北陸山陰地方の漁村に残る木造漁船の中央断面構造の分析から和船の発達過程を論じ、現在の和船研究の基礎を築いたといえる。

このたび、船大工の経験を生かし和船研究の成果を船舶模型の製作により発表してきた近藤友一郎氏が開設した「近藤和船研究所」の資料が当研究所に受け継がれ、その一部を紹介する企画展「近藤友一郎和船模型の世界」が開催されている。

近年、菱垣廻船実物大復元船を展示していた大阪市の「なにわの海の時空館」や青森市の「みちのく北方漁船博物館」が相次いで閉館するなど、和船資料の保存には困難な情勢となっている。そこには、船という大型資料のもつ特有の問題点も垣間見られるが、海そのものに対する関心の希薄さも感じられる。

そこで、本年度の常民文化研究講座ではこれらの問題点を念頭に、和船研究のこれまでを振り返り、実物資料とともに和船研究にとって重要な模型・図面・絵馬をはじめとする絵画資料に焦点を当て、それらの調査、収集、保存と活用について検討を加えたい。

日 時：2014年11月15日（土）13:00～17:00

場 所：神奈川大学横浜キャンパス 3号館305教室

基調講演：昆 政明（神奈川大学）

「復元舟才船の帆走と海事資料の活用」

パネル報告：真島俊一（TEM研究所）

「近藤和船研究所の資料とその特長について」

小堀信幸（船の科学館）

「海事資料保存の現状と課題」

神野善治（武蔵野美術大学）

「船霊と船の祭り—船の民俗学—」

総合討論：コーディネーター 小島孝夫（成城大学）

※報告のテーマは変更することがあります。

主 催：神奈川大学日本常民文化研究所

お問い合わせは、神奈川大学日本常民文化研究所
TEL 045-481-5661 内線 4358

第97回神奈川大学日本常民文化研究所研究会

憑霊信仰の歴史と民俗

日 時：2014年10月15日（水）17:30～19:00

講演者：酒向伸行（御影史学研究会代表理事）

場 所：神奈川大学横浜キャンパス 9号館11号室

主 催：神奈川大学日本常民文化研究所

お問い合わせは、神奈川大学日本常民文化研究所 TEL 045-481-5661 内線 4358



年報『非文字資料研究』への寄稿について

人類文化の研究は、人間それ自身と人間が織り成す社会を研究することを目的とするが、その研究は文字で表現された資料を主な対象として行われてきた。しかし、人間の活動とその結果生み出されるものは、文字で記録されたものに止まらない。絵画・写真・映画・建築・民具・音声などの形で記録されたり、地形や景観あるいは人間の身体それ自身に刻み込まれたりもする。さらに、匂い・しぐさ・味覚・感触など「記録化」することが難しいものも、人類文化を構成する大事な要素である。

非文字資料研究センターは、そのような文字以外の記録及び文字では表現されにくい人間の諸活動を「非文字資料」として体系化し、それを研究する新しい方法を開発し、より包括的な人間と文化の理解にいたることを目指している。21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」（2003－2007年度）以来、わたしどもは、その目的を達成するために〈図像〉〈身体技法〉〈環境・景観〉のなかから研究課題を絞り込み、共同研究を展開してきた。この共同研究は、歴史学・民俗学はもとより、文化人類学、比較文化論、美術史、建築史、災害史、情報科学などを専門とする内外の研究者によって支えられてきた。

このように多様な学問的広がりをもつ非文字資料は、世界各国の地域文化の諸相を具体的かつ可視的に示す絶好の資料であるとともに、資料自体が多層的な時代・地域において蓄積されてきた背景をもっているため、研究方法としても比較歴史的な視点を求めるものであり、ひいては、人類文化研究の総合的・学際的な発展の可能性を有している。

しかし、研究資料の分析指標の設定、意味の解説という困難な作業には、研究概念と成果の普遍性が求められる。また世界共通の標準的・普遍的な研究資料の資料化・体系化を行うには、世界各地の関連学問分野の研究者による相互検証が不可欠である。本センターの研究活動においても、関係研究者との共同作業を必要としている。

年報『非文字資料研究』は、世界の各地域において活躍されている非文字資料研究者からの寄稿を歓迎し、本誌が多分野にわたる研究者相互の学問的遭遇の場として発展するとともに、人類文化の豊かな研究に寄与することを期待する。

年報への寄稿をご希望の方は、当センターのホームページをご参照いただき、執筆要項等の詳細をご確認ください。

エントリー募集期間：毎年7月～9月

原稿締め切り：毎年11月末（その後、査読があります）

エントリー用紙：当センターのホームページよりダウンロードしてください。

年報執筆要項：当センターのホームページよりご確認ください。

エントリーシートの提出・年報に関する問い合わせ先：

非文字資料研究センター（E-mail: himoji-nempo@kanagawa-u.ac.jp）

ホームページ：<http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>